

PAT-NO: JP405329239A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 05329239 A
TITLE: PORTABLE BALL CONTAINER
PUBN-DATE: December 14, 1993

INVENTOR-INFORMATION:

| NAME | COUNTRY |
|--------------------|---------|
| KOBAYASHI, TAKASHI | |

INT-CL (IPC): A63B057/00 , A63B047/00

US-CL-CURRENT: 206/315.9

ABSTRACT:

PURPOSE: To easily house and take out a ball by providing a hole being smaller than the diameter of the ball capable of extruding the ball on one wall surface of a container, and providing plural notches on the position of the diameter of the ball in the periphery of the hole being smaller than the diameter of the ball provided on the flexible wall surface opposed to this hole.

CONSTITUTION: One wall surface of a container 1 is constituted of a wall member provided with a hole 5 through which a ball can be extruded with fingers, but which is smaller than the diameter of the ball, and the wall surface opposed to the hole 5 is constituted of a flexible wall member provided with a ball taking-in/out port 2 having a hole being smaller than the diameter of the ball, and also, having plural notches 3 to a position corresponding roughly to the diameter of the ball in the periphery of the hole. Also, on other wall surface than these wall members, a hook 6 or a belt penetrating member is provided, and a tee holding part 7 and a marker holding part are provided additionally. In such a manner, the portable ball container which is extremely convenient for carrying a ball, etc., and by which the ball can be housed and taken out easily and the presence of the ball is not felt is obtained.

COPYRIGHT: (C)1993,JPO&Japio

Document Identifier - DID (1):

JP 05329239 A

Current US Cross Reference Classification - CCXR (1):

206/315.9

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-329239

(43)公開日 平成5年(1993)12月14日

| (51)Int.Cl. ⁵ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
|--------------------------|------|---------|-----|--------|
| A 6 3 B 57/00 | H | | | |
| 47/00 | A | 7012-2C | | |

審査請求 未請求 請求項の数3(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-168421

(22)出願日 平成4年(1992)6月3日

(71)出願人 392018872

有限会社エムケイラバー工業
埼玉県川口市東本郷1082番地

(72)発明者 小林 傑

埼玉県川口市東本郷1082 有限会社 エム
ケイラバー工業内

(74)代理人 弁理士 友松 英爾 (外1名)

(54)【発明の名称】 携帯用ボール収納器

(57)【要約】

【目的】 ゴルフボールやテニスボールなどのボール類を身に付けて持ち運ぶのに極めて便利であり、ボールの収納と取り出しが極めて簡単でボールの存在を感じさせない携帯用ボール収納器の提供。

【構成】 ゴルフボールやテニスボールを一個づつ収納する室を1つ以上有するボール収納器よりなり、前記収納器の一方の壁面は、指でボールを押し出すことができるがボールの直径よりは小さい穴を設けた壁部材で構成し、該穴と対向する壁面は、ボールの直径よりも小さい穴を有しかつ穴の周辺にはボールの直径にほぼ相当する位置まで複数の切り込みを有するボール出し入れ口を設けた可撓性部材よりなる壁部材で構成し、前記2種の壁部材以外の壁面には、フックまたはベルト貫通部材を設け、必要に応じてティー保持部やマーカ保持部を付設したことを特徴とする携帯用ボール収納器。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ボールを一個づつ収納する室を1つ以上有するボール収納器よりなり、前記収納器の一方の壁面は、指でボールを押し出すことができるがボールの直径よりは小さい穴を設けた壁部材で構成し、該穴と対向する壁面は、ボールの直径よりも小さい穴を有しかつ穴の周辺にはボールの直径にほぼ相当する位置まで複数の切り込みを有するボール出し入れ口を設けた可撓性部材よりなる壁部材で構成し、前記2種の壁部材以外の壁面には、フックまたはベルト貫通部材を設けたことを特徴とする携帯用ボール収納器。

【請求項2】 前記ボールがゴルフボールである請求項1記載の携帯用ボール収納器。

【請求項3】 ティー保持部を付設した請求項2記載の携帯用ボール収納器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【技術分野】本発明は、携帯用ボール収納器とくに携帯用ゴルフボール収納器に関するものである。

【0002】

【従来技術】従来、ゴルフボールにしろテニスボールにしろ、ズボンやパンツのポケットに1〜2個入れてプレーしていたが、ボールの存在はプレーヤーに窮屈な感じを与えるものであった。また、スカート着用者は、適切なボール収納個所がなく、敢えてボール収納個所を設けたとしてもスタイルを悪くすると共に使用感も悪いという致命的欠陥があった。

【0003】

【目的】本発明の目的は、ゴルフボールやテニスボールなどのボール類を身に付けて持ち運ぶのに極めて便利であり、ボールの収納と取り出しが極めて簡単でボールの存在を感じさせない携帯用ボール収納器を提供する点にある。

【0004】

【構成】本発明は、ボールを一個づつ収納する室を1つ以上有するボール収納器よりなり、前記収納器の一方の壁面は、指でボールを押し出すことができるがボールの直径よりは小さい穴を設けた壁部材で構成し、該穴と対向する壁面は、ボールの直径よりも小さい穴を有しかつ穴の周辺にはボールの直径にほぼ相当する位置まで複数の切り込みを有するボール出し入れ口を設けた可撓性部材よりなる壁部材で構成し、前記2種の壁部材以外の壁面には、フックまたはベルト貫通部材を設けたことを特徴とする携帯用ボール収納器に関する。前記携帯用ボール収納器は、携帯用ゴルフボール収納器や携帯用テニスボール収納器などとして利用できる。ゴルフボール収納器とする場合は、ティー保持部および／またはマーカー保持部を付設することができる。

【0005】ボール収納器に設けられているボール収納室は通常2個設けるのがサイズの面からみて好適である

が、これに限定するものではない。ボール収納室は上下に積み重ねた状態のものが好ましいが、これに限定するものではない。ボール収納器の形状は、基本的には四角柱であるが、五角柱や六角柱のような多角柱であってもよい。場合によっては円柱や楕円柱であってもよい。また、ボール収納器の角部は尖っていると、腕や手などに触れたとき、傷ついたり、痛かったりするので、角部にはアールを付けることが好ましい。ボール収納器を形成している材質は、すべて同一の材質でもよいが、少なくともボールを出し入れする部分の壁材は、ボールの出し入れに対応できるしなやかさも持つことが大切である。材質の具体例としては、各種ゴム材料、可撓性を有する合成樹脂等を挙げることができる。

【0006】ボールを押すための穴は、ボールがこぼれ出ることがなく、指でスムーズにボールを押すことのできる穴であれば、その形状は任意であり、円形でも、三角形や四角形のような多角形であってもよい。ボールを出し入れするための穴も、ボールがスムーズに出したり、入れたりすることのできる形状であり、かつ反対側の穴から押されない限りボールが外にこぼれることがない穴であれば、その形状になんの制約もなく、円形でも、三角形や四角形のような多角形であってもよい。これに設けられる切り込みは、穴の中心から放射線状に等間隔に設けることが好ましいが、これに限るものではなく、穴を半円形とし、半円の直線部分から平行に2〜4本の切り込みを設けるといったような変形も可能である。切り込みの幅は、壁材の材質や厚みあるいはボールの大きさや穴の形状や大きさによって適当な幅を選択する。本発明は切り込みにより穴の周辺に形成された多数のいわば可撓性のフィンによりボールの出し入れと保持をおこなわせるものである。ボールの出し入れに伴う抵抗は、壁面を構成する材料の可撓性の程度や厚み、穴の形状、大きさ、および切り込みの数、深さ、幅などによって自由に調節できる。

【0007】指を差し込む壁面とボールを出し入れする壁面以外の壁面にはベルトやスカートにひっかけるためのフックやベルト貫通部材を取付ける。これらを構成する材料としては、金属や合成樹脂等を例示することができる。

【0008】携帯用ゴルフボール収納器として使用する際には、収納器の利用されていない壁面が好適であるが任意の壁面にティー保持部を付設することが好ましい。またティー保持部のかわりに、あるいはティー保持部と一緒にマーカー保持部を付設することができる。マーカー保持部は、例えば任意の可撓性を有する壁面にマーカーよりやや径の小さい孔を設ける程度でも十分である。

【0009】

【実施例】

実施例1

3

4

図1～図3はフック型の携帯用ゴルフボール収納器の一例を示す概略図である。図1は携帯用ゴルフボール収納器のボール出し入れ側から見た側面図である。図2は携帯用ゴルフボール収納器の指を差し込む側から見た側面図である。図3は携帯用ゴルフボール収納器のフック取付側とは反対側に設けられたティー保持部を示す斜視図である。図中、1は携帯用ゴルフボール収納器全体を示し、2はボール出し入れ部、3は切れ込み部、4はボールを収納する室の仕切壁である。5は指でボールを押し出すための穴であり、6はフック、7はティー保持部、8はティーである。ボールを出し入れする壁部材は厚さ約2mmのゴムシートを使用した。ティー保持部も同様に厚さ約2mmのゴムシートを使用した。マーカー保持部は必要に応じて携帯用ゴルフボール収納器の上面に付設する。

【0010】実施例2

図4と図5はベルト貫通型携帯用ゴルフボール収納器の一例を示す概略図である。図4は携帯用ゴルフボール収納器のボール出し入れ側から見た側面図である。図5は携帯用ゴルフボール収納器の指を差し込む側から見た側面図である。図中の符号は前記と同一である。9はベルト貫通部材である。

【0011】

【効果】本発明によりボールの携帯が容易になり、その

上、ボールの出し入れが簡単、迅速にできるから、プレーを心地よく、かつスマートに実施できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1はフック型携帯用ゴルフボール収納器のボール出し入れ側から見た側面図である。

【図2】図2はフック型携帯用ゴルフボール収納器の指を差し込む側から見た側面図である。

【図3】図3はフック型携帯用ゴルフボール収納器のフック取付側とは反対側に設けられたティー保持部を示す斜視図である。

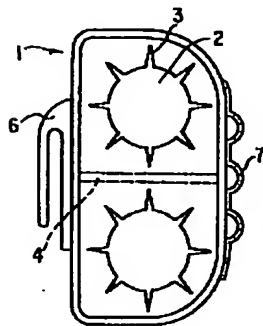
【図4】図4はベルト貫通型携帯用ゴルフボール収納器のボール出し入れ側から見た側面図である。

【図5】図5はベルト貫通型携帯用ゴルフボール収納器の指を差し込む側から見た側面図である。

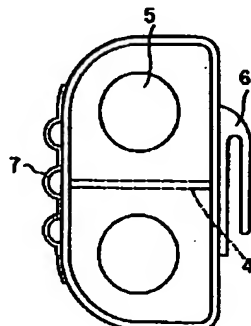
【符号の説明】

- 1 携帯用ゴルフボール収納器
- 2 ボール出し入れ部
- 3 切れ込み部
- 4 ボールを収納する室の仕切壁
- 5 指でボールを押し出すための穴
- 6 フック
- 7 ティー保持部
- 8 ティー
- 9 ベルト貫通部材

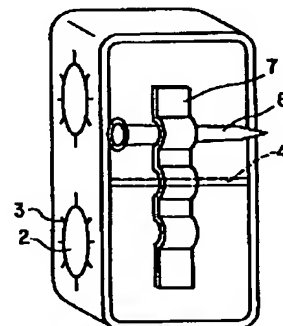
【図1】



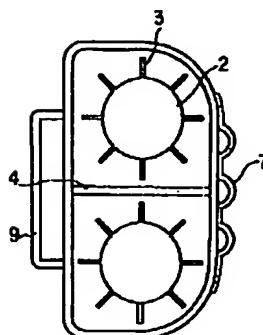
【図2】



【図3】



【図4】



(4)

特開平5-329239

【図5】

